

～科学と社会の関わりから“まちづくり”を考える～ 「TOKAI原子力サイエンスフォーラム」

参加費
無料



村では平成26年度から、東海村をメインフィールドに、社会科学の視点から研究を展開する若手研究者を支援しています。今年度の研究成果を報告するとともに、“原子力”と“まちづくり”について、住民の皆さんと一緒に考え、議論します。オンライン視聴も可能ですので、ぜひご参加ください。



日時▼3月23日(木)午後2時～4時

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

定員▼先着200人

内容▼▽成果報告…「大型研究開発事業の誘致・実施に際して自治体はどのような役割を果たすべきか？」報告者…山谷清秀さん(青森中央学院大学講師)▽講演…「東海村の原子力『前』史 ～日本初の国立結核療養所

『村松晴嵐荘』を中心に～」講演者…砂金祐年さん(常磐大学教授)▽パネルディスカッション ほか

申し込み・問い合わせ▼3月17日(金)までに、村公式ホームページ(右下の二次元コードからアクセス可)から、産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1270)へ申し込みください。



ふるさと歴史

～歴史を再発見～

旧村松小学校の思い出

♪松は緑に砂白くつづく浦曲の果知らず
太平洋を前にして一むら松のわがまどる♪

これは旧村松小学校の校歌です。皆さんの中には、歌った記憶のある方がいるかもしれません。現在95歳(昭和3年生まれ)の母が歌ってくれたのですが、同校に在籍していた私には歌った記憶がありません。校歌があったことすら知りませんでした。

「村松小学校」という名を聞いて、真っ先に思い出されるのは、木造の校舎です。松林と阿漕ヶ浦との間に威風堂々と建っていました。残念ながら、昭和37(1962)年3月に廃校となったため、私にとっては3年間通っただけの学校ですが、数多くの思い出があります。

平屋の校舎が運動場より一段高い場所に5、6棟建っており、裏手には教員住宅がありました。お手洗いが北東側の別棟にあって、怖くてなかなか行けなかった記憶もあります。

用務員さんが振る鐘の音によって始まる授業、帰りの放送は「海は荒海 向こうは佐



【昭和34年度 村松小入学生(1年1組)】

渡よ…」が流れました。机は二人掛けで、天板を開けて教科書や文房具を入れる形のものでした。給食は毎日あったわけではなく、お弁当を持っていく日もありました。脱脂粉乳の入ったミルク缶(縦長のやかん)は思い深いものです。正月には、晴れ着で登校し、紅白の餅とミカンをもらって帰りました。運動会は、小学1年生から大人まで参加する地区対抗リレー。学芸会は、教室の壁を取り払い、講堂となる広い教室で行いました。とりわけ、廃校により照沼小学校と白方小学校に分けられる切なさを、子どもながらに感じたことを覚えています。

このような些細なことは、私たちが今語っておかないと、忘れ去られてしまうかもしれません。そこで、「東海村史」(東海村刊行)などにも書かれていないことを、記録として残すことも重要ではないかと思えます。古写真展の開催や図録集を作成するのも良いかもしれません。まずは、記憶をたどる座談会をやってみてはどうでしょうか。

末筆ながら、今回の聞き取り調査にご協力いただいた、同級生の川崎松男さん、久賀幸夫さん、深川(旧姓中井川)直子さんに感謝いたします。

東海村文化財保護審議会委員

宮田 裕紀枝